

防災キャンプ in 室戸

1. 事業の概要

○ 趣旨

南海トラフ巨大地震や大雨等の災害時を想定しながら様々な体験活動を行い、避難時の知識を得たり、自分たちにできることを考えたりすることで、自助・共助の力を育む。

○ 実施期間

令和7年10月25日（土） ～ 令和7年10月26日（日） 1泊2日

○ 参加者数 15名

○ 講師 室戸ジオパーク推進協議会

○ 活動プログラム

10月25日（土）	10月26日（日）
12:30 高知駅コーナン店前発	6:30 起床・身支度
15:30 室戸ジオパークセンター受付	7:30 朝食（避難時食）
15:45 開会式・アイスブレイク	8:30 清掃・片付け
16:00 高知県・室戸の地形について知ろう	9:30 地震や津波について知ろう
津波避難シェルターって何？ （シェルターで1泊）	12:00 昼食（弁当）
18:30 夕食（避難時食）	12:45 ふりかえり・アンケート・閉会式
20:45 就寝準備	13:00 送迎バス 出発
21:30 就寝（津波避難シェルターで1泊） ※お風呂なし	16:00 高知駅コーナン店前着

2. 活動の様子

高知県室戸市がどのような地形なのかをジオパークセンターで学んだ。その後、都呂津波避難シェルターへ移動し、津波避難シェルターの役割等を学んだ後、避難後に電気・ガス・水道が使えない状態での食事やトイレ等がどのような感じになるのかを体験した。避難シェルター内で1泊した翌日は、ジオパークセンターで津波がどのように発生するのか、また、どのようなことに注意して避難すればいいのかを学んだ。



（避難所での食事の様子）



（シェルター泊の様子）



（津波発生実験の様子）

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・地震や津波は思ったよりこわい事がわかった。
- ・津波の危険さや速さ、災害の時どこへ逃げたらいいのかを知れた。
- ・津波がどのような流れで出来るのか知ることができた。
- ・防災食は以外と美味しいことを知った。
- ・お菓子でも避難時食になるのを知ることができた。
- ・友だちができて、夜とか楽しかった。
- ・シェルターで寝るのが楽しかった。

○ 事業の成果

- ・地震発生から津波のメカニズム等を、模型を用いて行うことでイメージし易くできた。
- ・津波の速さ等を知ること、自身が避難する時にどうするのか改めて考える場になった。
- ・電気や水道が使用できない状況での食事やトイレまた、水を使用せず行える洗髪等を体験することができた。

○ 事業の課題

- ・年齢が近いメンバーだけで、日常生活とは違う状況での食事や宿泊場所の為、低学年になればなるほどお泊り体験として楽しただけにならないようにする必要がある。
- ・災害発生から避難所への移動時の場面や被害状況によつての避難所での生活レベル等や対象年齢等を考慮し計画する必要がある。